

サ 香南市体育協会10周年記念
サッカー元日本代表がやってきた!

3月13日(日)市の合併に伴い、旧町村の5つの体育協会も合併し、10周年を迎えました。その記念行事として、サッカー元日本代表選手森島寛晃氏を迎え、サッカー教室と講演会を行いました。サッカー教室では、小中学生らが森島氏やセレッソ大阪の選手から指導を受け、熱心に練習に励んでいました。講演会では、森島氏が受けた恩師の教えや、日本代表でのプレーについて語り「うまくいかないときでも、次のチャンスは来る。そのチャンスを逃さないように常に準備しておくことが重要」と話されていました。



▲森島氏の指導を受け練習に汗を流す参加者たち

紙 やたらす
八咫鳥紙芝居動画完成試写会
芝居が動画になったよ!

香我美町徳王子の若一王子宮に伝わる神事「鳥喰いの行事」を描いた紙芝居動画の完成試写会が3月13日(日)若一王子宮拝殿で行われ、関係者ら約40人が参加しました。これは、動画制作委員会が制作した紙芝居の絵12枚に、徳王子地区の小学4～6年生7人がセリフを吹き込んだものを、香南ケーブルテレビが編集したものです。動画で流れた自分の声を聞いた子どもたちは「登場人物をイメージどおりにできました」などと感想を話していました。動画は香南ケーブルテレビで放送する予定です。



▲自分たちの声とともに話が進んでいく動画は少し不思議?

Spring
香南市、春爛漫!!

- 第9回かがみ花フェスタ チューリップまつり
- 西川花祭り

毎年香南市の春の訪れを彩る花の祭典「第9回かがみ花フェスタチューリップまつり」(香我美町岸本)と「西川花祭り」(香我美町西川)が開園しました。

かがみ花フェスタは、四国最大級の180種、9万本のチューリップが植えられており、天気にも恵まれた連休中には、ほぼ満開となった色とりどりのチューリップを見ようと大勢の人たちが訪れました。

また、3月20日(日)には、初の試みとして夜のライトアップを実施。昼とは違い、さまざまな色に照らし出される幻想的なチューリップを見ることができました。

西川花祭りでは、会場となる西川花公園一面に菜の花や桃などが咲き誇り、来場者は春の香りにつつまれながら、花と地域住民の手作りの料理を楽しんでいました。まもなく桜も満開となり、公園は一層鮮やかさを増します。(いずれも問い合わせは香南市観光協会 ☎56-5200まで)



▲かがみ花フェスタ
西川花祭り



姉 八重瀬町合併10周年記念文化交流公演
妹都市の文化交流

2月21日(日)赤岡町の弁天座で姉妹都市の沖縄県八重瀬町の伝統芸能を紹介する「八重瀬の風 黒潮にのせて」が公演され訪れた人たちは沖縄の伝統芸能を堪能しました。これは八重瀬町が合併して10周年を迎えることを記念し、香南市・八重瀬町文化交流事業実行委員会が主催。八重瀬町の保存会や青年会約50人が出演し、エイサーや獅子舞、棒術などを披露しました。また、香南市から香我美町山北の棒踊りのメンバーがゲスト出演し踊りを披露。伝統芸能の文化交流も行われ、会場はおおきに盛り上がっていました。



▲間近で見る八重瀬町の伝統芸能に圧倒されました

動 第5回のいち動物園小学生マラソン大会
動物園内を駆け抜ける

2月23日(火)県立のいち動物園で第5回のいち動物園小学生マラソン大会が開催され、野市小学校の2、3年生約200人が参加しました。この大会は車両などの通行がない園内を開放してマラソン大会を開催してもらい、動物にも興味を持ってもらおうと、のいち動物園が地元の小学校に提案し実現。大会当日は保護者や来場者の声援に加え、動物たちのあつ〜い視線のなか、児童たちは園内約1kmのコースを元気いっぱい駆け抜けていました。



▲児童たちが大勢走る光景に動物たちも興味津々!

物 第4回～物部川に感謝する日～ようきてくれたね物部川
部川の恵みをいただきます♪

2月27日(土)香美市の高知工科大学で「第4回～物部川に感謝する日～ようきてくれたね物部川」が開催されました。このイベントは、物部川流域の自然環境を保全することにより、物部川の生態系や環境保全の大切さを知ってもらうことを目的として、南国市、香美市、香南市合同で開催しました。会場では、物部川に関する各種の展示品や賞品が当たるクイズや、シカ肉カレー、シカ肉の焼肉、天然鮎の塩焼き、しらす汁が無料で振る舞われ、来場者は珍しい料理に舌鼓を打っていました。



▲物部川の生き物を題材にしたミュージカルも開催されました

ヤ 第3回ヤ・シシクロクロス
・シシパークでクロスカントリー

自転車のクロスカントリー競技「シシクロクロス」の大会が3月6日(日)ヤ・シシパークで開催されました。9つのクラスに未就学児から60代まで約90人が参加。ロードバイクやマウンテンバイクなど、自慢の自転車で砂浜、ボードウォーク、芝生などヤ・シシパーク全体を使ったコースを激走しました。当日は時折強い雨が降るコンディションでしたが、選手たちはぬかるみで転倒しないようにバランスをとって走ったり、時には自転車を担いで自らの足で走ったりし、シシクロクロスの醍醐味を味わっていました。



▲自転車を担いで走ることも。乗ったままの選手とスピード勝負!